

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人NPO埼玉ネット

事業名	避難所運営訓練及びNPO連携構築事業
枠の種類	ネーミング事業
分野	損害保険ジャパン株式会社 防災・地域安全支援事業
①事業の目的・この事業で取り組んだ課題	<p>・大規模災害に際して、地域の安全・安心を図る防災拠点における避難所運営及びその運営をサポートするNPOと地縁団体との連携構築を図り、SDGs「誰ひとり取り残すことなく」の精神を共有し、地域の受援力の強化を図る。</p> <p>・近年、大規模災害が多発しており、改築なった「日進2丁目自治会館」からは、災害時における避難所運営について相談が寄せられている。また、広く自治会員を巻き込み、「自らの命は自ら守る」意識を醸成するとともに、様々な災害現場で支援活動の経験が豊富なNPOの経験を共有することにより、災害弱者に寄り添う避難所運営が求められている。</p> <p>・日進地区では、災害支援、大宮日進七夕まつり等でNPO、商店会及び自治会の連携が進んでおり、NPOの持つ専門性ある災害支援のノウハウが活用できる。</p>
②課題を解決するため、取り組んだ個々の事業	<p>1) 避難所運営セミナー・訓練 自主的な避難所運営ができるようになるためのセミナー及び訓練（ワークショップ）を開催する。</p> <p>2) 連携構築に関する調査 阪神淡路大震災、東日本大震災及び以降の災害時におけるNPO連携災害支援活動の経験を調査・整理してまとめる。</p>
③個々の事業の内容・実施結果	<p>1) 避難所運営セミナー・訓練</p> <p>① 趣旨：自主的な避難所運営ができるようになるためのセミナー・訓練は、コロナ対策のため避難所(自治会館)室内が使用できなくなり、商店街内の広い駐車場を活用し「日進防災訓練」として実施した。</p> <p>アルファ米に対する懸念を払しょくし、災害時に自治会役員等が対応できるように、実際にアルファ米を調理する「おいしく食べるアルファ米調理教室」として、2回開催した。</p> <p>② 日時：第1回 10月18日(日) 13:00~16:00 第2回 11月23日(祝月)14:00~17:00</p>

	<p>③ 対象者：住民、自治会員、商店会員、市民団体</p> <p>④ 場所：寿司割烹・山水の駐車場（日進商店街の中心に位置し、近隣住民が集まりやすい場所。日進親和会会長の店舗）</p> <p>⑤ 参加人数人数：第1回30名、第2回50名 計80名</p> <p>⑥ 外部協力者：市民キャビネット災害支援部会、立正大学・地球環境科学部環境システム学科、一般社団法人協働型災害訓練</p> <p>2) 連携構築に関する調査</p> <p>① 趣旨：阪神淡路大震災、東日本大震災及び以降の災害時におけるNPO連携災害支援活動の経験を調査・整理してまとめ、成果物「市民の災害支援活動の歩みとNPO連携」として1,000部を製作した。</p> <p>② 時期：8月以降調査、資料整理、執筆、印刷・製本し、8月31日に完成した。</p> <p>③ 調査対象：阪神淡路大震災時に活動した市民団体、市民キャビネット災害支援部会等に取材した。</p> <p>④ 発表方法・時期：成果物「市民の災害支援活動の歩みとNPO連携」をセミナー、自治会、首都圏市民センター・市民団体等へ無料配布した。また協働型災害訓練 in 杉戸等、訓練において配布した。</p> <p>⑤ 取材協力者：市民キャビネット災害支援部会、編集者石山僕（作家）</p> <p>○ 広報実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ：日進2丁目・松原の両自治会で全戸配布 ・市民キャビネット災害支援部会メールマガジン（3,500アドレス）、Facebook等での参加依頼 ・新聞掲載：読売新聞、み～て大宮、にっしん瓦版 ・県の共助社会づくり事業「コバトン記者団」の取材を受けた。
<p>④ 個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>1) 避難所運営セミナー・ワークショップ</p> <p>① 参加人数：2回合計80名</p> <p>② アンケート結果：26枚回収、全員好意的なご意見</p> <p>③ 地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ影響下でのイベント自粛に伴い、一部内容を変更したが、NPO連携により東京都福祉局の災害備蓄用アルファ米の配布協力（埼玉県内で約30t、3,000,000食分）を得られたため、今回の活動に取り入れた。 ・小分け調理方法を日進親和会（商店会）と協働開発し、「おいし

	<p>く食べるアルファ米調理教室」として、日進地区自治会連合会、日進2丁目・日進2丁目松原・日進3丁目の各自治会の協力を得て実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに、11月の開催ではネットヨタ東埼玉のハイブリッドカーの電源でのデモ、損保ジャパンのボランティア協力など、地元企業の協力も得られた。 ・自治会役員以外の住民も多数の参加があった。こうした活動の広がりにより、フードバンク日進の設立につながった。 <p>2) 連携構築に関する調査</p> <p>成果物：「市民の災害支援活動の歩みとNPO連携」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月以降調査、資料整理、執筆、印刷・製本し、8月31日に1,000部が完成した。災害支援活動を風化させず、次世代に引き継ぐ資料として配布した。 ・調査対象：阪神淡路大震災時に活動した市民団体、市民キャビネット災害支援部会等。
⑤費用の工夫	<p>広報・会場設営は自治会の全面的支援を得ることができた。会場は地域団体の協力により、無料で借用することができた。</p>
⑥地域社会への還元について	<p>NPOと地縁団体との連携構築を図り、SDGs「誰ひとり取り残すことなく」の精神を共有し、地域の受援力の強化が図れ、地域の防災意識の向上と、NPOとの協働の意識が高まった。</p> <p>特に一般家庭における、アルファ米の試食を継続的にできる訓練環境を整えたことにより、非常時の避難所運営の地域ボランティアの確保が容易になった。</p>
⑦今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、地元自治会、企業と協働して訓練を行うことができた。 ・NPOと地縁団体との協働がいっそう図られた。 ・アルファ米小分け調理方法の開発「おいしく食べるアルファ米調理教室」を日進親和会(商店会)と協働開発した。
⑧事業の実施体制	<p>○事業の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ①総括責任者：松尾 道夫、②連絡責任者：中川 龍示 ③現場責任者：小山田織音、④経理担当者：中川 龍示 ⑤広報担当者：安藤 大輔
⑨来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	<p>拠点としている埼玉NPOハウスが、日進地区から東松山へ移転するが、引き続き、大宮日進七夕まつり、日進親和会に役員を派遣し協働を進める。とくにフードバンク日進を協働の拠点とし、地域福祉、災害支援活動を継続する。</p>